連載：原点

自分らしく

成東高等学校　井野 克哉

私は千葉県内の中学校，高等学校で臨任講師として 3 年間勤めました。この 3 年間で多くの教職員の方々や生徒に出会い，お世話になり感謝しています。3 年間という時間は長いように感じますが，私にとっては正規の教員として働く覚悟を決めるために必要で，今の私があるために大切な時間でした。

私は教壇に立ち始めてから，常に「教員たる者は」と考え，自分自身の個性を出さないようにしながら毎日を送っていました。そのため，教員採用試験の前には，私なんかが教員になってもいいのだろうかと後ろ向きな考えに陥ることもありました。講師 2 年目のとき，ある先生の一言が私を救いました。「いろいろな先生がいて良い」とアドバイスをしていただけたときに，肩の荷がすっと下りました。私らしさがあり，生徒が教員として認めてくれる人間性を築いていくことがこれからの課題です。

私の初任校は母校でもある成東高等学校です。生徒として青春を過ごした学び舎に，次は教員として貢献できることへの喜びを感じています。当時と現在とでは生徒の実態に多少の差はありますが，勉強と部活動の両立や，日々の課題テストに向かう姿勢など，大変さを共感できることも多くあります。また，進学指導重点校として，当時の良い教育にさらに改良が施され，卒業生として現役生を応援する想いが芽生えています。

正規職員になり，生徒の成長に長く関われる喜びと同時に，責任の重さに不安になることがあります。授業では初めて扱う科目もあり，教材研究の毎日です。校務分掌でも来年以降を意識して伝授していただいており，日々の記録が欠かせません。正規職員になると多くの仕事を任せてもらえることを知り，驚くと同時に，仕事が重なった際には押し潰されそうになります。しかし，その私を助けてくれる先生方の存在や講師の経験がヒントとなり，微力ではありますが母校に貢献できていると実感し，充実した日々を送れています。

授業は，新型コロナウイルス感染症による休校の遅れをカバーするため，プリントで実施しています。プリントで実施することは授業の流れを作りやすく，事前の板書計画も立てやすいことがわかりました。そして，これからは問題文から図を想像する力を養うために，ICT を活用した授業に挑戦したいと思っています。また新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況でのスタートでしたが，学校で授業をする意義を考えるきっかけになりました。自宅でも学習できる環境や体制が整った今，学校に登校し仲間と勉強する意義とは何でしょうか。私は，相手がいることにより数学への理解が深まることや，社会を生き抜くために必要な力が身につくことだと考えました。他者理解を必要とする活動や友達のミスから自分の解き方を確認する学習方法を取り入れたり，数学の内容に限らない話題を学級全体で共有したり，これらの活動を通して，生徒との人間関係を築きながら，私にしかできない授業を創り上げていけるようにこれからも試行錯誤して頑張っていきます。